高校生の大学でのボート競技継続意志に関する研究 Intention to Continue Rowing in Collegiate Athletic Teams among High School Students

1K09B010-3

指導教員 主査 松岡 宏高 先生

池野嘉彦

副査 間野 義之 先生

【目的】

近年の公益社団法人日本ボート協会の事業計画には、「オリンピックでのメダル獲得」と「ボート人口増大と魅力向上」の二大方針が掲げられている。特に、中学校世代のボート競技人口を獲得しようと計画しているが、松岡(2011)によればボート競技は高校生から始めている者が多いことが明らかにされている。競技と出会う機会の少なさを考えると中学生の競技人口を増やすのは容易ではない。また、同協会長の大久保氏は協会のホームページにおいて、オリンピック軽量級種目でのメダル獲得という目標とそのための長期計画の重要性がうかがえる文章を公開している。これらを踏まえると、今後の人材獲得は高校生に着目し、大学や企業でもボート競技を継続させる長期的計画への参加を促すべきと考えられる。そして、その土台として、現在の高校生は大学で競技を継続することに対してどのような意識を持っているのか調査することが重要であると考えた。

そこで本研究は、高校生のボート競技継続数の増大を図るべく、高校生のボート選手を対象に大学でもボートを継続して実施することに関してどのように考えているのか、その動機に着目した調査及び分析を実施した。①現在の高校生のボート競技者たちの実際の継続意志を明らかにすること、②継続、非継続の意志に至った要因を明らかにすることを目的とした。

【方法】

調査対象は、2012年10月5日から2012年10月8日までに開催された「ぎふ清流国体」に参加した高校生と過去4年間のインターハイ、全日本高校選抜ボート大会の戦績から選定した上位10校のうち2校に質問紙調査を実施した。

質問紙は国体に参加した高校生に対しては調査員がそのまま回収し、選定した2校については団体でとりまとめたの郵送返信による回収を行った。

まず、大学でのボート競技の継続意志の有無について質問し、「継続意志あり」群の高校生と「継続意志なし」群の高校生に分類した。「継続意志あり」群の高校生には、自由記述式の質問を用いた予備調査から作成した継続要因に関する8項目の質問を7段階尺度で答えてもらうとともに、この8項目以外の継続要因についても質問した。「継続意志なし」群の高校生には、非継続の理由として、大学でも競技を続けるための条件としての継続要因について自由に記述してもらった。

【結果】

有効回答者 138 名のうち、61.6%(n=85)が男性で、

37.7%(n=52)で女性あり、平均年齢は16.6歳であった。学年別では、高校1年生が16人、高校2年生が36人、高校3年生が35人であった。また、学年不明の回答が51名であった。

ボート競技継続意志の有無に関して、継続意志なしと回答した高校生が75.0%(n=102)を占め、今回の調査においては競技を継続する意志のない対象者が多いことが明らかになった。競技歴「2年未満～3年以上」と「3年以上～4年未満」の間に有意な差がみられ、後者が高い値を示した。

「継続意志あり」の高校生(n=34)の継続に影響を与える要因では、「ボートが好き」が平均値が5.5と最も高い値を示し、継続意志のある高校生はボート競技を進学や奨学金獲得のツールとして行うのではなく、純粋にボート競技が楽しくて、だからこそ高い目標を目指す傾向にあることが明らかになった(表1)。

「継続意志なし」の高校生の非継続要因に関しては「ボート以外への興味」が平均値が4.2と最も高い値を示し、大学に行ったらボート以外のことに専念したい傾向にあることが明らかになった。

また、可能な大学でのボート継続要因については、「自分に足りない実績・競技力」が平均値が5.9と最も高い値を示し、次いで「希望進路先の競技環境」が平均値が1.6を示した。継続意志なしの高校生は自分の実力に限界を感じて競技を断念するとともに、進路先に競技ができる環境がなくて断念する傾向にあることが明らかになった。

表1：ボート競技継続の要因

項目	n	平均値	標準偏差
親のすすめ	37	2.73	2.117
既存ボート部・クラブチームに所属している選手、指導者のすすめ	36	3.64	1.759
高校で残した成績に満足がいかないこと	36	3.28	2.133
より高い目標に到達するため	36	5.11	1.450
ボートで大学への進学が望めること	36	3.69	2.303
スポーツ奨学金のような個人単位の財が入ること	36	2.25	1.746
高校より恵まれた環境が大学にあること	36	3.25	2.062
ボートが好き	35	5.50	1.692

※「1：全くあてはまらない」から「7：大いにあてはまる」までの7段階尺度

【考察】

高校生の競技継続意志について、競技歴が長いほど継続意志が高いことから、公益社団法人日本ボート協会が中学世代の人口増加を狙っていることは良いターゲットの絞り方だと考えられる。また、非継続の高校生は実力や環境の問題から、本当は継続したい傾向にあることが伺えた。どこでもボートができる環境を整備し、どの選手も実力に関して自信をなくさないように高校生にアプローチすることが継続人口の重要な要素であろう。